加賀さは

[illegible]

[illegible]

[illegible]

言語にて云ふべき体にあらず東海道海岸を
八百里ばかり歩行して初めて
富士の山を見たるなり
初めこの山に
ものぼりて
まことに
ふじ
ふじ
ふじ

いる立場より感ずる山岳のあるいは
居ると云ふ無見堂といふたるなれの
京色第もの如き雄しといふ
巨勢は金岳第絵様もんも実ふこと
かつて如何程なるよりなるの杉とる
大樹あり世つて西湖禅師の所有
なりしを移すこの西湖の八景ふ
似せたりとて八景の名をふ付けたる
とのや世寺の頭の面弁栗の待を年

ちよ強色堂のかくとふ二里といふ
寺の名より法師の出て八ふの
所へ入よりて色免の称て拍かたり
ふ色ふいつ興絵をくる立石寺
休いて色より立て居かり居の
ばを一無の雲いかり頼朝公の様
強刻ちつや中かりて潮戸橋色
かくて形る東屋ふ色ふ色の
やうとふ定りて居る照の子

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

義乃陳営の前より金剛院へ行営の
うしろふ如きなる石あり世人一名
明神と称す所も飯盛と唱ふ山内も
ふる白幣数本立て世人乃ふたたり
けるゆゑなり東石垣有て高さ
なるかよの行ふ所ふ内の孫の庠ハ
きのふ一張ハ今ハ八幡のこと
うして山内ハ行ふ
石の後ふ毎ハ金剛や

二月十七日 高野山の名所

如ふ乃たて新堀乃松原堀と称して
弘法ふ出ふ乃ふ場有ふ
田畑の中ふ立て新堀の切通ふ有
如ふ乃の一所堀乃有ふ石乃方ふ異ふ
地蔵ふ多ふ石の像乃ふ武蔵乃
けるのいとかや弘法大師の作ふ
供養ふ志ふ仏又ふ
書ふ弘法ふ梶原の宮ハ

はるこせんかわを渡り杉本の観世音ふ
ぎりに坂東一番の札所なりしと奇の橋と
ゆきりたるこの天神の社と中ごろ川
大きなる文乃古社宮山石の方頼朝公
再興なり今年畑となる大くぼの高
町家有筋遠橋宮海道和小係ふ和
新つ為将軍再興なり鶴ヶ岡三の宮前
和宮の下なる大津寺たる仏ぶい
ふるいなる仏像ていることを

ふふ庵右ゆきゆきて石の蓮池あり
右のこと小橋ありその中ふ毎天の社を
ゆきへい高宮有りと義経公八幡宮深
乃形切の生人として一橋をきり霧ふ
年庵の白すけたいは宮ゆ池乃
思ひ杉の木なみ生たる二王つと三つ株
はたる洲二王ふ宮参乃作ふ庵の
かく護摩堂不動ふ或安産と大山北
ふ動ふと同一仏の世ゆ平家追付乃

と記この山堂を建て文覚上人をこの所の
形勝をたづねしに左の方に童子吉
牛に乗りひしりこの所に来りかんかう仕
為前の池に形しこの所に西面神宮殿
右に大塔を建立すると安置さり同
所に高さ三丈又弘法拝あるそのさま
ひとへに仏法を思ひ出るまことにのこり
姫石大明神とあるのなり大石有をを
いのる時はよりこの病と治せしいと

まことに広大の社地と出て烟をたつ三重
寺を建つ前に天正元年に浄光寺乃
創れ建たり本尊十一面観世音観
安置せり堂の前に由井の長老の七回忌
を建立せり塔一つたてり毎の七月に
なりなる鐘をよそまてり講会の所乃
中に十所西を落したるに其をそれに
生をそれをそれに浦長老に小條家六代の
さ様の人なりをまたり為地とのあれて

頼朝公の文治乃頃有玉の紀年長寛寛永
の比薩摩乃国司より寄附せられ
今に右乃通りの姿をのこして大石廣元
法律忠久乃墓へまつりまつえの社殿よ
りて右の方より某師堂有神切皇后と
飾付をして也なる文八幡宮の御作よ
りまつる也神ら仁徳天皇を祭りまつる也
をかの也井ら清よ有りとなる移り
まつりまつる洲乃社にて吉野朝公乃

志川乃ほとり清原の舞を見ないて感慨乃
形をなすとなる也まつりとなる
よりまつる也なりまつる七本巻乃經文を
書納りまつりと八角塔ほかを作也
ら也なる八幡宮乃右隅ら方
有之十方仏をのゆる方乃下に
いてまつりて大樹あり新しき文の別宮
公麗仏文実朝公祈願の歌をしていて
の陰ら也出て宮もまつりをしまつる小條

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又山寺一乃建長寺（まゝ）表門左の方
ちかの七間の間一間あり山門を入て地蔵
堂佛山地蔵と云和尚堂のうしろ弘法
の池の向いに松の大樹ありて有名なる
清神源を山中より多組なりしを
移谷奉天寺に移し弘法大師の御作と
なるよし洞つとなて坊の方浄寿寺へ
まゐる当氏公の建立のなり　足利家
十三代の出養有しのゆへこの日つゝ

事なゆゑ左のごとき庭の山の上に
冷泉為村卿の御手なる有と云也山の麓に
山の間乃上移家の屋敷なるしるし
管領屋敷乃名のこ殘りて家畑なる
坊乃ふ矢柄地なる立を有り移る
景政乃事和尚と云立て左の方
家門ち時彩乃ち有松ち昌東寺へ
まゐる表つよ男禁制乃札ありて世俗
なるし佛ふ日光清山乃例都使者

勝ち長へ戸まきをなりてさの所をとりの
さらに出て五山寺二番長さへまるたちあり
のりて大ら孫有西田和尚といふ人乃諸
をたしたしの中豊を祈迦如来天竺乃
こ川まら他いつ元とて五山寺に浄智寺へ
長へつ乃方のうふ五番水の内かんろあり
あり豊川は社有小條川頼乃建立
いふ山のを光ふ行ちわて立長ちて
中世初あり細ふ山法を下て寺細成

ちて寺たい坂ふ西ふ海紀寺まるこの
れふ弘法大師十六乃井ふ乃所
かあちあ子代の尾ぬとぬ乃井まて
京法乃古の宰あて有源氏山を居ふ
ちて英勝寺とちて扇ふ谷の芦原屋敷
いまる山源氏山ふ所ふ義家朝臣
坂東乃武ふを集先ふ所ふ
ほふ他て白ちて山源氏山ふ云ふ
史ふ五山寺三番福寺ふる山有

実朝公の正養寺にて唐
宋の御ものなる世尊の像の光明を
いつくしみ給へり　坂の中ほどの長谷の
七堂伽藍あり　岩屋堂浄見寺の前と
なり　其辺小路あり　世尊右の方
人丸姫の塚　青畑の中に松の古木
あり　其ほとり武公の屋敷なりと云ひ
是も畑なり　ゆるのの下大仏へ三町
四丁程　蛭史てしに　あんらしに二の鳥居

をくぐりて　西に橋あり　右へ出る小路有
此を右へ行ほど世尊の碑有　寛文
巻年の建　松の古木　長谷の三橋
成の別名なる
世尊碑　辰の刻　高さ　横　と云
光明寺　第六番　世尊　日朗　日蓮上人
乃ち　宮有　日蓮上人　法の口乃品難の時
海上人　おろい四条金吾　兄弟　世尊
禁ぜらるる　宮の前なる堂

六人の像をつくりて右の方の山の頂に
山王の社を建まつり源氏の二仏と称する
昔頼朝公上総の大椎の木にて
御師に命じて造り給ひしと堂を
改る前の四尊堂に小像弘法
しかるに玄奘の仏像小堂に焼失
今の堂仏像ありて弘法大師
稲村ヶ崎に長谷寺観世音と
三尺春日大神作り給ひ

和堂の内に稲の神を東山義政公
御建立ありしと　右の方に大黒天の像
弘法大師の像　中堂に弘法
南を向て中央に演三浦三崎の
ありて源ありて
弘法の作　坂の中に阿弥陀仏の像
頼朝公の四尊堂に
こと　仏師稲荷
頼朝公の

[illegible]五霊の[illegible]部[illegible]
[illegible]
[illegible]

義経の腰越状は寺に納めたるが伝わる
伝説なり　今八月一日より泉岳寺にて
あるとなり　又伝説に
口山へ行く院内に光りの松宇治の内小
妙見大士絵　安置　方丈の方上人の
石の宰相祖師の肖像と安置　中堂
数年堂　ひろ方の方に七面の社
あり　浜辺より海面と又浜辺に風景
あり　つ前に四軒茶店

ひろ山に上り　志摩地にて　時雨
住　雷を不思議　山もあり　清水あり
毎夜　ひろ　石の面　恵比寿
ひろ面　と　宝　地　との面
あり　下の文の別当　あり　寺　坊
ひろ　岩本院　奥の院　岩屋の別当
ひろ　池　つ前小　池　かく
ひろ　大きく　有　坊　参
三重の塔　有　智　来　安置　と云

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]人
の[illegible]を[illegible]て[illegible]を[illegible]て[illegible]の[illegible]
[illegible]川[illegible]覺大師[illegible][illegible]を[illegible][illegible]
別當[illegible]有金剛[illegible][illegible][illegible]清淨[illegible]
水[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible]眼[illegible][illegible]貝[illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible]一[illegible][illegible]有[illegible][illegible]
[illegible][illegible]清[illegible]井[illegible]山[illegible]川[illegible]堀[illegible]
地[illegible]里[illegible]

[illegible]二三[illegible]
[illegible]岩屋の[illegible]社[illegible][illegible]
[illegible]海[illegible][illegible]
[illegible]甲[illegible]
[illegible]海[illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible]
[illegible]岩[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]人[illegible]

神仏有無の問答人毎に相論して更に
聖弘法大師の名号を唱へて清き水を
汲神に祈りて祈願し行の勇の院と
名付て金胎両部を分る四遍上人
ふたつを分ていつもいつも無明の橋の
ごとくして胎内の法を中上人授
ていつも有無両部の弘法大師法門の
深きを六字の名号をかよし毎日
唱て四所より来り動きなく少しも
頼朝公四国巡礼有り時海上に
見る所に一ツ光り見る所に
石まる板石形の名あり
海人の集り居たるを見れば
うつふ入波とりて あるを
とりて 石 住吉の
三侍の 海 沖の方小
強 夫 元 板
勇乃命天の 川 服

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うつの文乃多者ものいつかてはの
細工物をとそのへ恵比寿様を
まつる源をとなふ世間又山面ものも
そうう海海をもて行熊村ハ春社の
前を通り同所の海とへ石上村
産所なる人をもていつるて体
越後者へまんる宗山を一遍上人
仏王門をへ右方ふ方又右なる
のもて小栗源重の豊有宝物
あり主源上人のたう無子姫乃者なる又
鳥廉毛城多既世者ハ元加ふ
者ハ有乃和如く松原を通戸塚
いたる藤金へ乃追分ハ焼保ハ
ふとを通て者ハ保ハ体
程谷乃並宗をいふ者へ
市言墨屋乃弁通民中ハ和如
神奈川の者て者ハ体川
六人を云ふ大歌なる山者て者

その人を推して西川和尚八十山を出でみ
泉岳寺へ入り田町なる八幡の社に行て
夕暮乃比我家へ帰る　この夜の如き
ものの前に年来つかへし　張衣
ものなれば神を祭る姫　と
云ふ乃ち我が妻なれば　なるべし
あるいは母なる人なれば　つゝを
ものとなりしこと　時代の行先の如つ
ものを

云ふ乃ち乃の色の白き人の物語
あるいは母なる人なりしと　書
ものを　行先の思い出まして

いつの年か雲間寺の本堂屋根に旋日花のはえ出たる事ありしとて内裏江の御物語ありし旋日花の事を色々と尋ねし翌日迎屋の内にて
たちまち一つの日花咲たり又伝右衛門屋敷
にも花咲たり共に目のあたり奇怪
なる事なり花俳句さまざまの風雅を尽
せり内裏にて御覧ありて花に奇よりて

夫婦ともわりなき宿りの袖一年ばかりひとつら海ゝの中おもふまゝ丈なるいとさうの志るしをかけ其年月日八文老の書文をもしめるゝ尾張国藤ノ橋さうを老も物も高きをもて藤丸をもて年志りり

寛政七卯のとし仲夏　　十五歳　朴園傳人

澤文庫

仁杉